近畿学校保健学会通信
No. 3
昭和39年6月20日 発行
第11回近畿学校保健学会事務局
京都市左京区吉田二本松町
京都大学教養部保健体育学教室
TEL (77) 8111 内 773

学校保健学会入門一年生より一言

天理大学体育学部　永井豊太郎

5月17日京大教養部で開かれた第11回近畿学校保健学会に出席させていただいて，期待以上に盛大なのに喜びを覚えた。各種の専門家の集りだけに，この種学会の運営は非常に難しいのにかかわらず，めざす学校保健の目的は一つの合言葉に真摯な討論反省の場が展開されたことは何より嬉しかつた。

健康教育の任務は学徒の心身の発達にあるのは今更ぜい言を要しない。最近の青少年の身体の成長成熟については，いろいろの欠陥が指摘されないでもないが，概しては目覚ましいものがあるのにひきかえ，精神面では成長どころか寧ろ次第に不安定化の傾向にあることは憂うべきことであると思う。

吉川さんから中学生のノイローゼについての報告があつた。受験地獄の問題が多くの場合とりあげられているが，私たちの青少年時代の競争率は現在の比でないきびしいものであつたのだから，今の青少年の根底に精神力の脆弱さがあるものと思わざるを得ない。これは私なりの考えかも知れないが，青少年をとり巻く環境の浄化は確に必要なことであるにしても，現代社会が必要以上に青少年を甘えやかし過ぎて，自立する能力を失わせしめているのではないかとも思う。たしか私たちの大学生時代には父兄会もなければ保証人制度もなかつた。（専門学校にあつたかのように記憶するが）勿論経済的な独立はなく親のすねかじりではあつたが，精神的には今の青少年より早く独立してをり社会に対する自己の責任を感じていた。

現代は余暇消費娯楽にこそ人生の意義が認められるのであるともいわれているが，アメリカのMorrison はその著書に於て高度に生活をenjoyすると共に建設的な仕事を行い社会に寄与してこそ，その人は健康な人といえると説いている。盾の片面だけに終始してはならないと思う。又以前は生産労働禁欲の倫理にしばられていたともいわれているが，黙々と押しつけられていたのではなく欲求不満もないことはなかつた。唯現代の一部の青少年のようにはEscape又はRationalization を行わず自己統制の努力を行つていた。それでももてあました場合は経験豊かな思考力の勝れた年長者先輩との人間関係によつて解決していつたのである。

以上これらの相違の解明に人知れず悩んでいた私は重松先生のご講演により当日のさつき晴れのように晴々とした気持になつた。しかし現代のようなmass society では避け難い現象であるとは悲しい現実である。

但し精神不安定の結果最も嫌悪すべき非行に走る危険性のある要注意者は只今のところ2～3%程度にとどまつているようである。元来人間には理化学的あるいは生物学的の所謂Stressor に対すると同様，精神的Stressor に対してでも自己を防衛する精神統御力（精神力）がある筈である。精神医学者ならびに心理学者の協力を得て，青少年の時期に於

て，この精神力の測定により心の健康度を知り，これに基いて要注意者の早期発見とその対策など精神力管理を行うことが学校保健を一歩前進せしめることになると思う。

この意味に於て「ＮＳテストについて」の宮田さんの研究「ＮＳテストによる問題生徒の発見について」の今村さんの研究「児童の自律神経系緊張傾向調査方法設定のための予備研究」と題する大阪学大のＰＳＭ研究会の方々の報告，「非行少年の動機について」及び「非行少年の家族関係に関する研究」（武庫川女大の菅生さん中出さんの報告）などはこの方面における貴重な研究発表であつた。又大阪府立高等学校学校医部会の長谷川さん等のお手になる研究資料をいただいたことは有難いことであつた。

第１１回近畿学校保健学会総会に参加して

神戸大学教育学部教育衛生学教室研究生　　横　尾　能　範

会場の大きく開かれた窓から，緑一色の京都の山々の樹々の間を吹き抜けてきたであろう快よい風が，さっとはいりまた出てゆく。川畑愛義会長を中心として，５月１７日に京都大学において行なわれた第１１回近畿学校保健学会総会には，本学会をここまで育てあげてこられた先覚の方々をはじめとして，これから学校保健をおし進めようとする若いエネルギッシュな会員が一堂につどい，私たちの日頃の研究の成果が発表され，熱心な討議が行なわれた。

なかでも〃学校保健をいかに強化するか〃ということについてのシンポジウムでは，それぞれの立場になってみなければわからない問題点なども数多く持出され学校保健の強化に向つて，さらに一歩，力強い歩みを進めた。現在の学校現場は，校長の学校保健に対する関心次第で，その学校の保健活動が大きく左右される状態であり，しかも，一般の学校においては，いわゆる保健活動が，現在の教育方針，あるいは父兄の要望する方向とは逆向きに進められがちであり，保健活動の強化が，必ずしも望まれていないという興味深い問題が，校長の立場として提起された。このことは，学校保健が現状のままでは，強化はおろか，ますます後退せざるを得ないことを示している。また，日々の保健活動に直接タッチしている養護教諭からもこの点が強調され，アンケートの結果から現場の人たちに対する，するどい批判とともに，学校保健が，学校教育をおし進めるための土台としてだけでなく，教育の目的であるはずの健康に向つて，学校全体の盛上がりをしてほしいとの願いが出された。

これは，なかなかむずかしいようである。この学会総会においても，学校保健とは学校保健管理である，という考えかたのもとに，学校保健の強化が云々されていたかの感があつた。それは，このシンポジウムの講師の構成からみても，午前中の一般演題において，とくに，学校保健管理面の主として技術的なことの発表が多かったことからも窺える。

また，一般演題のなかで，富士貞吉教授のだされた，学校保健と公衆衛生という問題は，学校保健活動の一方向として興味あることと思われた。シンポジウムのなかでも保健活動が学校内だけの問題だけでなく地域社会とのつながりを持つよう努めるべきだ，という意見もでたが，この意見とも共通するように思えた。

京都大学の重松教授が，本学会の特別講演のなかで述べられた〃狼が吠えれば一緒になって吠えなければならない〃という現在において，私たちは生徒たちが吠えだすのを押えるのでなく，どうしたら生徒たちが一生のびのびと自から進んで発言でき行動できるようになるかを考

え，教えるのが責務ではないであろうか。

現在，保健管理面の専門的立場にある学校医や学校歯科医，学校薬剤師に対する位置ずけの悪さには，校長や保健主事や一般の教師の保健に関する知識の欠如から生まれていることを重要視し，教員の資格取得条件の一つとして，保健に関する学科目を置くべきであるとの意見は，会員一同の支持を得たように思われた。もし，実際にこのような学科目が教員養成大学に置かれるとすれば，どのような内容と位置ずけで置かれればよいのであろうか。現にある教育学や教育心理学とどのような関係であるべきであろうか。また，単に学校保健管理をめざす形で行なわれるべきものであろうか。教育学部を卒業した私にとっては，このことが大変気がかりである。

いずれにせよ，本学会会員の先輩の方々の大きな努力によつてここまでおし進められてきた学校保健を現場で花咲かせ，さらに充実させるために，私たちはより一層の努力をするとともに，先に記した学校保健の歩むべき道，ならびに，この学科目の内容について，私たち会員一同が真剣になつて考えていかねばならないと考えさせられた。

高知大学教育学部保健教室　小 松 寿 子

わたくしたちが，学校保健の立場で調査研究をすすめている興津で，四天王子学園女子短大冨士貞吉教授と福島大学須藤春一教授が，昭和３９年４月６日に診察し，保健的生活方法についてアドバイスした。その実態とわたくしたちの調査研究成績の一部分を昭和３９年５月１７日の第１１回近畿学校保健学会で冨士貞吉教授が発表されるので傍聴を願い出た。会長の川畑愛義教授と座長の佐守信男教授の配慮によつて，参加・全く予期していなかつた追加発言と近畿学校保健学会通信第３号へ寄稿の機会が与えられた。

わたくしたち，高知県学校保健学会を毎年１月５日に開催している。「知識や教育行政などについての一連の研究と討議」が教育委員会や教育現場などの管理者側と自主的に展開できるようにならなければならない。そのためには非常な忍耐と努力と時間が必要であるが，そのなかで学校予算の項目に保健の経費が確立できるようになるはずである。保健室の整備の行き届いていない僻地の学校の実状をみると寒心にたえない。

つぎに昭和３９年３月における学校生活の側面について報道機関が報道したなかで，愛情のある教育行政の必要性を示す事例を列挙する。

３月１３日：半分しかない問題　高知の高校入試　また印刷ミスわかる

３月１５日：修学旅行でケンカ　高知の中学生，大阪で刺す

３月１６日：校長おどし先生なぐる　興津中の３生徒　鉄線の撤去が動機

３月２４日：修学旅行生が乱闘　船上で中学生２人がケガ

３月２４日：６人に懲役，１人に罰金　興津中小学校盟休事件に求刑　などである。

この興津小中学校は高知県の僻地１級地の学校である。報道機関によつて昭和３７年度に４回に渉る同盟休校が報ぜられた。

昭和３８年９月に興津小学校に養護教諭定員１名を増員して，昭和３９年３月まで一般教諭を配置していた。昭和３９年４月にこの養護教諭の定員を高知県教育委員会は減員した。

数年来高知県教育委員会は公立高等学校生徒に健康手帖を，義務教育学校の児童生徒（生活

保護．準保護家庭をふくむ）をぬきにして，学校設置者が県であるという立前から無償配布している。

上述の諸事例は「現場における教育施策とくに地方教育行政のあり方」として，学会で研究し手を打つべきである。

校長と一般教員に保健教育についての関心をたかめさせ，子どもの保健福祉に必要な法規を理解し，運用し得る教育能力をつけさせるには，県教育委員会や教員養成学部の機構，運営とか人材などの問題についてのかかわりあいをもとりあげねばならない。

わたくしは，研究調査をとおして，新らしい哲学と理念の必要性をしみじみと感じている。

保健教育はこれでよいか

大阪学芸大学保健教室　榊原栄一

私は数年前２．３の志を同じくする方々と話し合つて府の担当者を尋ねたことがある。それは中学校，高等学校へ保健学専攻者を送り込むためであつた。その口上は免許法で保健が独立教科として認められ，私の大学のみならず大阪市内には保健学専門コースを開設して保健科の教師の養成をしている学校があるのに，保健科卒業生の教師への採用テストの門が閉ざされているからである。１回，２回と出向するにつれて遂には１人となつたが６月下旬から９月末迄の３ヶ月間数日おきに通いつゞけた。その結果えられたものは，某主事の並々ならぬ個人的努力と同情とによつて頭初問題にもされなかつた採用テストに何んとか割込めそうになつてどの様な形式でか不明であるが翌年度の各教科テスト設定委員会に持込まれることに決定した。数日後約束の時間に，期待と不安を抱きながら府庁舎にその主事を尋ねたところ，貴殿の努力に感じて相当論議をつくしたが，大阪府としては保健科教師の採用は時期早尚であると決論されたことを聞かされた。全く割切れない気持で今日に至つている。無理が通れば道理が引込む程度ではなく，免許法と云ふ法律が定められたことが実行されないのである。しかもこれが教育の問題であり，教育の場においてである所に不安がある。

ひるがえつて保健が必要だと考えている多くの人々にその理由を尋ねてみると，自分は結核を患つて数年間療養生活を送つたから，自分は喘息持ちだから，自分は胃が悪いから等々と必ず過去が現在にどこか身体的な欠陥があつて苦しんだ経験があるから，その苦痛に思いをはせて必要だという。病気の経験のない者は身体をきたえておけば病気になることはない，いわば身体の健康管理の立場からのみ必要性を考えるのが一般的通念であり，関係者もこの様に理解し指導しているのであろうか，この様な考え方の限界では保健学習の重要性が理解できる方が無理であると当時その様に感受した。

最近私は３０校の高校卒業生数十名を対照にして保健学習の内容について調査したところ５８.６％において保健教科は健康生活の土台として必要であると答えたところが授業をうけた学習内容にほゞ満足と興味を抱いたと答えた者は僅か２０.７％であつた。従つて８０％前後の者は不満足を訴えたのである。その理由は授業の内容が浅薄で系統的理論的でなく，教師自身にその内容がよく理解出来ていないという指摘が圧倒的に多かつた。また受験に関係がないから，のんびり保健学習は受けられないし，教科書もなく授業もなかつたから答えら

れないと云ふのも相当数に登つた。
以上によつて現在の保健教育のレベルが何辺にあるか，どの様に実施されているか，従つていかにあらねばならぬかと云ふことが反省されよう。

僻地（和歌山県下）における児童の体位と栄養

和歌山県立医科大学公衆衛生学教室
白川　充　　中元藤茂
奥野千里　　三谷典子
和歌山大学学芸学部保健体育　藤田善裕

戦后児童の発育状況も大分変つて来て居り，現在の如き社会環境に適応するためには如何なる体型がよいかなども云々されて居ります。
私共は公衆衛生活動の資料として和歌山県には所謂僻地が多いのに着目して学童の発育状態を主として栄養や社会環境の面から今后調査分析する予定であります。今回は若干の資料を学校保健の立場から整理し，3級，4級の僻地の学童について，次の様な成績を得ました。

1. 学童の生活環境
   父兄の職業は農（林）業が多い
   保護家庭の%
   娯楽，テレビは割に普及している。
2. 栄養摂取と体位　蛋白源としては豆卵が多く，摂取回数の多い方が身長，体重の増加がよい様に見える。
3. 和歌山市地区の学童と比較すると体位は劣る様に思われる。

（講演抄録）

第11回近畿学校保健学会総会議事録抄

昭和39年5月17日　於京都大学教養部

1. 議　事
   イ　昭和38年度事業報告及び会計報告承認　　ロ　近畿学校保健学会会則改正案承認
   主なる改正点 (1) 本会の事務所は学会長のもとにおく。（第2条）
   (2) 副会長．評議員及び幹事は会長が委嘱する。（第13.14条）
2. 報　告
   次期学会開催地：兵庫県
   次期会長：神戸大学　佐守信男教授

皆様へ御礼とお願い

第11回近畿学校保健学会長　川畑愛義

昨年の和歌山の大会でみなさまの推挙を受けて本大会の会長をひき受けてからいいようもない重責を感じてきていたが，いま大会を終えて静かにふりかえつてみるとき感概に堪えないものがある。学会の運営や，大会の持ちかたについての相談は専ら幹事会の協議の方針にしたがつたが，幹事の方々が多忙中あるいは遠路のところを寸暇をさいて出席して下さつたことが第一の感謝にあげられよう。幹事会会場に予定された椅子が足りなくて後から補充するのが例であつた。また幹事会の討議は自由活潑に行なわれたが，協力的，建設的であつたことは，学会の規約を根本的に改定するような場合でも最終的には全員一致の終結をみることができた。ことでもわかるみなの委員が小異を捨て大同につくという大乗的知見を示されたことも本会の前進のために大きなプラスであつたにちがいない。
大会の運営にあたつてもシンポジウムの持ち方，特別講演の選び方について，のみなが積極的に意見を開明されたことも本学会の伝統を物語るものであつたであろう。とくに共催をして下さつた京都府ならびに京都市の教育委員会の方々，学校医会の方々はお腹を空かしながら夜の深けるのも知らずに協議を続けることもしばしばであつた。ここに満腔の謝意を表する次第で

ある。

大会には大元老として竹村一博士，千田勇博士，富士貞吉博士，三浦運一博士，伊良子光義博士，片岡慶有博士などがおいで下さり，錦上花を添えて下さつたことは何よりうれしく思わずにはいられなかつた。会員一同も敬老の精神のほか，有難いことと感謝したことであろう。また遠く四国の高知大学の小松寿子教授，長野から仁科典子先生，東京から北町一郎さんなどが来られたのは「友遠方より来る。喜びこれにすぎるものはない」という言葉に尽きよう。それから発表して下さつた一般会員，シンポジウムの講師，特別講演の重松俊明教授など，また御多忙中出席下さつた会員のみなさまに心からお礼を申しあげたい。また本学会の運営のため蔭に陽に絶大の支援を下さつた大島明雄博士にも格別の謝意を献げたい。終りにわが教室員の全員にはまた特別の危介になつた。

次期大会は明敏にして有能な佐守信男教授が会長としてより一層有意義で盛大な第１２回大会を開催されることを期待してペンをおくが，ここに重ねて全会員の一層の御活躍と御協力をおねがいしてやまない。では会員のみなさま，来年の春また神戸でおめにかかりましよう。それまでお元気で，お大事に。

第11回近畿保健学会に参加して感じたこと

京都府相楽郡加茂町立加茂小学校　　島　　信　昭

初めて保健学会に参加させていただき，その運営ぶりや講演内容等々まことに学会としてふさわしく，有意義な一日を過させていたゞいたことを深謝いたします。

講演内容（第２会場）では，私といたしましては特に武庫川女子大学食物学科から御発表になつた非行少年に関する事項についての真しな研究の取り組みに特に感動され今後の参考になる点が多かつたように思われます。またこれと関連して青少年の不良化が大きな社会問題となつているとき京大の重松先生からこれに関する特別講演を拝聴できましたことは非常に有意義でした。今後こうした健康教育の中における精神衛生面の研究に努力精進の必要を痛感した次第であります。

次期学会にはでき得ればこのような分野の内容が豊富に盛られるようにしていただければ幸いと存じます。

近畿学校保健学会に出席して

京都府学校保健主事会長　　上田雄佐武

学校保健が学問の立場からその諸問題について究明され，児童生徒の心身の障害の原因やその予防の方法が発見されて，これが教育の現場に遍く実施されると共に一般関係者の理解と関心更に積極的に協力される体勢に盛上がることが今はの学校保健進展の上に最も大せつなことだと思います。

この意味に於て今までのこの会の果した役割は大きく評価されると思います。然し評議員会の席上どなたかの発言にもあつたように，学会という名のために大学の先生や高次の専門の方々のみによつて徒らに象牙の塔に立こもる形に陥つたり，一般現場の実際家が近寄り難いものに思うような空気にならないようあくまで学校保健が国民みんなのものとなり，それが学問の力によつて更に高められ深められるよう努力することが必要だと思います。

この意味に於て先般京都大学でのそれは私共実際家にとつて参加された方々や，発表された内容共に極めて関心深いものであり比較的心易く勉強させていたゞいたことを感謝しています。唯発表された問題や研究内容について若干疑問な点もあり結論的なものが出ないものに対する適切な論議乃至は指導的な記明がなかつたのは少し物足らなさを感じました。

会の運営については時間的な制約で十分なものは期せられないのはやむを得ないとして，よく準備され大たいスムースに行つたように思います。

実質，非常に重要なものであり，発表された諸問題から見て今後の国民育成の基本にふれるもの更に大きく国家の消長にも関係するこの問題の研究が，経済的に如何に貧困であるかに今更驚かされると同時に，今後関係者一体となつて，公共からの経費補助に大いに努力することが肝要だと思います。年間わずか３０万円に足らないものでは今日何も出来ないわけで，よくぞ生きているものだとさえ感ずるわけです。

尚今後は更に学校現場教員特に学校保健主事や養教諸氏がこの会にもつともつと多く参加させていたゞき研究を深めると同時に学校保健上の重要な問題発見とその解決のための勉強の場とするよう極力すすめたいと思います。